

正蓮寺の川施餓鬼

正蓮寺の川施餓鬼

しょうれんじのかわせがき

分野／部門

無形民俗文化財

保持団体

宗教法人 正蓮寺

所在地

大阪市此花区伝法 6

紹介



施餓鬼(せがき)とは、餓鬼道(がきどう)にあつて飢えと渴きに苦しむ餓鬼に飲食を施し、仏に供養することによつて餓鬼を救済し、自身も長寿することを願う仏事をいい、特に川辺で死者の霊を弔う施餓鬼を川施餓鬼という。川辺や船を用いて行われ、施餓鬼法要の後に、水死者の法名を記した経木(きょうぎ)や供物(くもつ)などを川に流す。本来は時期を限つたものではなかつたが、盆行事と結び付き精霊(しょうりょう)送りや納涼の要素が大きくなつていった。

正蓮寺は寛永 2 年(1625)に開創された。寺伝では川施餓鬼は第七世寂行院日解上人(じやっこういんにつかいしょうにん)が享保 6 年(1721)に始めたと伝える。『摂津名所図会大成(せつつめいしよずえたいせい)』(安政年間=1854~60)には

例年七月廿六には、当地正蓮寺といふ日蓮宗の寺院に施餓鬼の法会ありて、浪花中より宗門の男女、船にて群集して、いたつて賑わし。是を伝法の施餓鬼とて、天神祭に彷彿たる舟行の大紋日也。

とあり、天神祭とならぶ夏の大きな祭となつていたことが分かる。

現行の行事は 8 月 26 日に行われる。午前 10 時から新盆会特別法要がはじまる。続いて唱題(しょうだい)行進が行われ、塔婆(とうば)・経木供養、法話・説教、稚児大法要・焼香、練供養(ねりくよう)、船渡御(ふなとぎよ)、経木流しの順に行事が進行する。

午後 3 時頃から練供養をして乗船場(新淀川閘門繫船場(こうもんけいせんじょう))へ向か

う。行列は先見(せんけん)、金棒(かなぼう)、旗幡(はた)、纏(まとい)、稚児、御輿(みこし)、大太鼓、僧侶、団扇太鼓(うちわたいこ)、檀信徒の順である。日蓮聖人(にちれんしょうにん)立像を納めた御輿には多数の経木も納められる。行列が乗船すると、玄題旗(げんだいき)と吹き流しを立てた船団は新淀川の中央まで進み、先頭の船の舳先(へさき)で導師が読経をしながら経木を流し、それに合わせて参列者が御題目を唱えながら経木を流す。

正蓮寺川で行われていた川施餓鬼では、川の中に五色の幣(へい)を付けた笹、塔婆を立てた棚が数多く設けられた。笹と精霊棚(しょうりょうだな)の前を船渡御の船列が進むというもので、多くの見物の船が出て大いに賑わった。

精霊棚は、昭和 18 年(1943)以降失われた。さらに、地盤沈下によって橋の下を船が運航できなくなったので、昭和 42 年(1967)から新淀川に移動して行事を行っている。

日蓮聖人が萬霊供養のため、川まで出向く行事の形式をとり、諸霊を送り出す経木流しが組み合わされた盆行事であり、かつてはいくつかの寺院で行われていた、水都大阪らしい行事の遺風を今日に伝えている。

参考文献

花月亭九里丸「伝法の施餓鬼」(『上方』44 1934)

南木 芳太郎「四十九回正蓮寺川施餓鬼参観記」(『上方』45 1934)

田野 登「川施餓鬼の都市民俗 -河海での神送りと遊覧-」(『日本民俗学』218 1999)